

ムダなダムをストップ！！

事務局だより No. 25 2009年 5月 1日 ムダなダムをストップさせる栃木の会

ムダなダム裁判今後の日程

☆対栃木県知事・3ダム訴訟 いよいよ証人尋問へ

9月10日(木) 13:30～ 宇都宮地裁302号法廷

嶋津暉之さんの証人尋問

10月15日(木) 13:30～ 宇都宮地裁302号法廷

花輪伸一さん(WWF J)と原告3名の証人尋問

4月30日の進行協議では、元県知事の福田昭夫氏および当時の県の担当者2名の証人探否については留保となった。原告の証人尋問が終わった後に、必要であれば実施するが、それで十分と判断された場合には実施せずに結審、という流れになるようだ。

☆対宇都宮市長・湯西川ダム訴訟 控訴審はじまる

5月14日(木) 15:00～ 東京高裁822法定

原告側は控訴理由として、「ダム使用権設定が地方自治法の財産には当たらず、またダム使用権設定申請を取り下げるか否かについて被告市長は広範な裁量権を有するとして棄却した」原判決の判断には、法令解釈の誤りおよび事実誤認がある、としています。また、証拠書類として自治省出身の元官僚である細谷芳郎氏の著書「図解地方公営企業法」を紹介し、「水道事業は過大投資こそが健全経営の最大の敵であり、政治的な思惑を廃し、現実的な人口動向等を踏まえて的確な水需要予測をおこない、人口が減少に転じる見通しとなっている今日においては、すでにダムや水道施設の建設に着手している場合であっても、情性に流されず、必要とあれば建設投資計画の大胆な見直しも辞さないという姿勢が特に重要だ」との見解を引用して、立証しようとしています。

東京高裁に傍聴に行かれる方は事務局までご連絡ください。

第1回口頭弁論期日には、東京高裁822法廷の傍聴席をいっぱいにし、原告団を支援しまし

よう。これまで原告代理人の弁護士さん達にはボランティアで取り組んで頂いていますが、控訴審では、せめて交通費はムダなダムをストップさせる栃木の会から、と考えています。東京まで傍聴に行く方にも交通費を補助することになりましたので、どうぞお申し出ください。

東京高等裁判所：東京都千代田区霞が関1-1-4（TEL：03-3581-5411）

最寄駅は ①東京メトロ有楽町線 桜田門駅下車 徒歩約3分

②東京メトロ丸ノ内線、日比谷線、千代田線 霞ヶ関駅下車 徒歩約2～5分

雨の中、ヤマナシの花吹雪

南摩ダム建設予定地の自然観察会報告

4月25日（土）、鹿沼市上南摩の南摩ダム建設予定地で春の自然観察会が行われた。当日は朝から雨が降っており、さらに風雨が強まるとの天気予報もあって、参加者は常連の9名のみ。恒例の野外での昼食会には新メニューを準備していたが、残念ながら中止となった。

立木が1本もなくなったダムサイトを過ぎ、栗沢に向かった。ヤマナシの大木は雨の中、真っ白な花を上半身にまとい、甘い香りを辺りに漂わせていたが、花の盛りは1週間ほど前だったとみえて、下の方には若葉がかなり伸びていた。食いしん坊の参加者は、口々に、これなら秋にはたくさんの果実が採れるから、10月の収穫祭には甘く煮て参加者に振る舞ってはどうか等と言いつつ。乞う秋にご期待を！

さて、この機会に栗沢をもっと奥まで詰めてみることにになり、沢沿いの林道を歩いて行った。足下にはニリンソウ、イチリンソウがたくさん咲いていた。ツバキの大木が赤い花をつけており、白い花が満開のヤマナシをもう1本見つけた。ダムのための地質調査が行われた地点では、高さ2メートル弱の大きな横穴が奥行き100メートルにもわたって掘られていた。その横穴から5メートル毎に採取された地層標本がまるで土饅頭のような形で20ほども並んでいた。標識を見ると、玄武岩あり、チャートあり、珪質含有の岩石ありだが、ダムの水圧にしっかり耐えられる岩質なのか、はなはだ疑問に感じた。

このほかに観察した植物は、コンロンソウ、アリアケスミレ、ヤマブキなど。野鳥の鳴き声は雨音にかき消される状況だったが、ウグイスの囀りが絶えず聞こえており、他にはヤマガラ、ヒヨドリ、ヤブサメなど。風が吹く度にヤマナシの白い花びらがハラハラと舞い落ち、天候が悪かった割には満足感が味わえた観察会であった。 （葛谷 理子）

今こそ全国の市民が総結集し、

ムダな公共事業をストップさせよう！！

ムダな公共事業の徹底見直しを実現する全国大会

2009年4月25日・東京

ダム・砂防・治山・道路・林道・空港・港・埋立・処分場・ハコモノ・・・私たちの税金はどれだけムダに消えているのか？ 問題の根っこはどれも共通していて、政治や行政、経済システムなどにあることはわかっています。

ところが、私たち市民団体・NGOは、問題ごとに縦割りになってしまい、あまり横の連携を取ってきませんでした。政権交代も取りざたされる中、私たちが縦割りになっているのは、問題の解決を求めても、その声は小さく、分断されたものになってしまいます。

今こそ、公共事業の問題に取り組む全国の市民が総結集し、「ムダな公共事業」をストップさせようでは、ありませんか。・・・というわけで水源開発問題全国連絡会が事務局になって開かれた今回の全国大会には、「ムダなダムをストップさせる栃木の会」「思川開発事業を考える流域の会」も賛同団体として加わり、ムダな公共事業の事例として南摩ダム、湯西川ダムの現状を事例集で報告しました。

4月25日、会場の東京・日本教育会館には雨にもかかわらず全国から約180名が参加し、「ムダな公共事業」への怒りを結集しました。その怒りを野党の代表に伝え、野党代表からは各党の「ムダな公共事業」へ立ち向かう決意表明が得られました。事務局の水源連の報告では、マスコミの取材も多く、成功裏に全国大会を持つことができた、ということでした。

この全国大会の賛同団体は88団体にのぼり、ムダな公共事業の資料集には延べ64件の事例が報告されているということでした。現在整理中なので、後日有料（1冊1000円）で販売されるそうです。希望者は水源連の遠藤さんまで、(yakkun@mvd.biglobe.ne.jp)メールで申し込んでください。

自然観察会のお知らせ

湯西川ダム建設で水没する「風前の灯」 “風穴”の見学会

風穴には、熔岩が固まる過程で空洞が生じ、そこから冷気を吹き出すもの（富士山型）、あるいは岩壁が崩落して岩塊が堆積し、その隙間から冷気を吹き出すもの（累石型）、の2種があります。冬季に隙間に入り込んだ氷雪が凍って夏まで溶けずに残っているため、上部から入り込んだ外気が冷やされ、下部から冷気として出ると考えられています。

湯西川の風穴は累石型風穴です。冷気噴出口付近は低温高湿のため、樹木は生育できません。コケ類が多く、コケの周辺にはシダ類が多く、風穴以外には見られないという特殊な植物が生育しています。この風穴の観察を永年続けている植物の専門家が同行して下さる予定です。

日時：2009年5月30日（土）9時～14時

集合場所：川治ダムサイト駐車場

持ち物：あれば双眼鏡、ルーペ、温度計、昼食・飲み物適宜

参加費：無料

主催：ムダなダムをストップさせる栃木の会・思川開発事業を考える
流域の会・日本野鳥の会栃木県支部・水環境条例制定ネットワ
ーク

問い合わせ：事務局 TEL：0285-23-8505

FAX：0285-22-5608

訃報

当会会員の福田健彦様はかねてよりご病気のため療養中でしたが、2009年2月12日、逝去されました。福田様は南摩ダム問題の中でも特に大谷川導水について深く研究され、大谷川導水の中止に大きく貢献されました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

ムダなダムをストップさせる栃木の会

事務局：小山市城東2-10-22

TEL：0285-23-8505

FAX：0285-22-5608

年会費：3,000円

郵便振替口座：00140-1-500609